

平成29年度 第1回 神奈川県地方創生推進会議（平成29年10月31日）意見整理表

NO	委員名	意見	対応	二次評価
基本目標 1				
1	大塚委員	働き方改革は、若い世代の結婚や出産などのライフイベントだけではなく、神奈川県が東京都や他自治体との違いを打ち出し、人を呼び込んで成長していくための大きな柱になるので、基本目標 1 に連なる視点を盛り込んだ方が良いでしょう。	二次評価に反映しました。	<ul style="list-style-type: none"> ・生産年齢人口の就業率について、増加している年齢層や性別などを分析し、より一層効果的に取り組む必要があります。 ・中小企業の事業継承について、問題が多様化しているため、実態をしっかりと分析し、取組みを進めていく必要があります。 ・県産農林水産物のブランド化を図るため、地域資源の掘り起こしをさらに進める必要があります。 ・農林水産業の担い手の確保について、引き続き取組みを進めていく必要があります。 ・ワーク・ライフ・バランスの促進も含め、誰もが安心して働ける労働環境づくりにより一層取り組んでいく必要があります。
2	牛山座長	基本目標 3 「若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる」の二次評価の「女性が働きづらい原因を分析し・・・」という指摘は、基本目標 1 の「（県内に仕事をつくり、）安心して働ける（ようにする）」にも共通する課題であるため、横串を刺すような、何らかの工夫ができると良い。		
基本目標 2				
3	富山委員	神奈川県はそれぞれの地域によって異なる特徴があるため、地域ごとの魅力をしっかりと洗い出し、どこが一般の方にとって魅力的に見えるのかを確認していく必要がある。	二次評価に反映しました。	<ul style="list-style-type: none"> ・ロボット共生社会を実現するため、メディアの活用を含め普及啓発を一層進めるとともに、社会実装に向けた取組みを進めていく必要があります。 ・外国人観光客誘致に向け、日本在住外国人からの発信や外国語サイトの活用など、より一層効果的に発信する必要があります。 ・マグカルについて、様々な年齢層に関心を持ってもらうため、幅広い分野のコンテンツを扱うとともに、ターゲットを明確にした広報を行う必要があります。 ・三浦半島の観光振興に向け、シーレーンの整備など海洋ツーリズムをさらに進めていく必要があります。 ・各地域が持つ魅力を発掘し、磨き上げるとともに、既存の地域区分にとらわれず、より広域的な視点も持ち、神奈川の良さを引き出していく必要があります。
4	立山委員	丹沢・大山地域は3市にまたがっているが、一体的なプロモーションができると良いので、県の役割として広域的な取組みを束ねていく欲しい。		
5	平井委員	三浦半島や県西地域の社会減をゼロにしようとしているが、現状では社会減である。東京に対する転出超過が続いている中で、地域の魅力をいかに発信していくのが課題である。		
6	富山委員	現在設定されている圏域にとらわれず、地域をまたいで魅力づくりをしていくことができると良い。	二次評価に反映しました。	
7	山崎委員	かながわシープロジェクトにより、相模湾という共通点で事業者を一体化することができ、より強力で誘客に向けた環境ができて上がった。相模湾にある海の駅を拠点としてつなげていくような環境も整いつつあり、オリンピックも意識しながら、神奈川の海に観光客等を誘客していく動きが進んでいる。	ご意見については事業実施の中で参考とさせていただきます。	
8	立山委員	大学卒業後、一定数の人は大学周辺の地域にとどまる傾向があるので、昨今の大学の都心回帰の風潮を踏まえ、県内の大学が県外に移転しないよう施策を検討しても良いのではないかと。	二次評価に反映しました。	
9	林田委員	県内各地域の特徴に応じて、子育て世代や介護世代など、それぞれの状況に適した地域に住み替えていくといったように、県内で市町村が連携し分散化させることで県外に転出していく人を減らすよう、県が中心となって取り組んでも良いのではないかと。	ご意見については事業実施の中で参考とさせていただきます。	

NO	委員名	意見	対応	二次評価
基本目標 3				
10	斎藤委員	交付金について、基本目標 3 に関する取り組みが少なく、関連事業としてもシルバー層に向けた事業となっていて、若い層に向けた取り組みが足りないのではないか。	ご意見については事業実施の中で参考とさせていただきます。	・若い世代の経済的な基盤の安定に向けて、より一層取り組んでいく必要があります。
11	斎藤委員	若い人たちの結婚を支援したり、男性の働き方を変え、家庭での仕事も十分に果たすようにしていくなど、会社のトップがトップダウンで会社の中の意識改革を行っていくことも大事であるし、県がそうした企業の意識改革を後押しする施策を行っていく必要がある。	二次評価に反映しました。	・女性が働きづらい原因を多角的に分析した上で、長時間労働の是正や職場環境の整備など多様な取組みを進めていく必要があります。
12	大塚委員	企業を巻き込んでいくためにも、働き方改革について、県が本気で取り組んでいくという姿勢を見せることが必要である。	二次評価に反映しました。	・ワーク・ライフ・バランスの実現に向け、企業風土も含めた働き方改革に企業が取り組めるよう、県として積極的に支援していく必要があります。
再	大塚委員	働き方改革は、若い世代の結婚や出産などのライフイベントだけではなく、神奈川県が東京都や他自治体との違いを打ち出し、人を呼び込んで成長していくための大きな柱になるので、基本目標 1 に連なる視点を盛り込んだ方が良い。	二次評価（基本目標 1）に反映しました。	・潜在的待機児童にも配慮しながら保育所の整備を進めるとともに、保育の質の向上に取り組んでいく必要があります。
13	大塚委員	企業へのテレワークの導入推進のために、まずは神奈川県庁でテレビ会議やテレワークを積極的に導入してほしい。	ご意見については事業実施の中で参考とさせていただきます。	・子どもたちが、目標に向かって粘り強く取り組む姿勢や協調性、感情をコントロールする力などの「生きる力」を身につけられるような教育に一層取り組む必要があります。
14	大塚委員	神奈川県庁という行政組織において働き方改革がどれくらい進んでいるのかを示す指標を加え、そのインパクトを全国に発信していく中で住民の皆様にも神奈川県は本気なのだということを伝えていただきたい。	ご意見については事業実施の中で参考とさせていただきます。	
15	ジャーマン委員	KPI「25～44歳の女性の就業率」が上がっていることで、評価されているが、男性的な価値感ではないか。KPI「事業所における男性の育児休業取得率」は5.8%でしかなく、これでは神奈川県に住んだら女性は仕事も子育てもしなくてはならず、より忙しくなるという印象を与える。県が発信していく価値観としては、疑問である。	ご意見については事業実施の中で参考とさせていただきます。	
16	ジャーマン委員	テレワークなどによる働き方改革をさらに進め、男女ともに平均労働時間が全国より少なくなれば、子どもと過ごす時間があると受け止めてもらえ、県に移住・定住しようという人が増えるのではないか。	ご意見については事業実施の中で参考とさせていただきます。	
17	大橋委員	基本目標 3 について、全体としては概ね順調に進んでいるという評価で良いが、まだまだ課題が多いため、今後も力を入れて取り組んでいただきたい。	ご意見については事業実施の中で参考とさせていただきます。	
18	大橋委員	神奈川県は通勤時間が全国 1 番で長いということを踏まえ、働き方の改革などをさらに進めていくことが必要である。	ご意見については事業実施の中で参考とさせていただきます。	
19	大橋委員	KPI「保育所等入所待機児童数」の達成率が402.4%となっているが、実感に沿っていないのではないか。	ご意見については事業実施の中で参考とさせていただきます。	
基本目標 4				
20	室田委員	地方創生の中で、防災についてももしっかり取り組む必要があるのではないか。	ご意見については事業実施の中で参考とさせていただきます。	・県民が「未病改善」によって得られる効果を実感し、健康に対する関心を高められるよう、未病の考え方の一層の周知を図る必要があります。
21	室田委員	空き家だけでなく、空き地や耕作放棄地など、手入れが行き届かず、管理が不十分な土地をうまく活用していくことも考えていく必要がある。	二次評価に反映しました。	・バリアフリー化を進めるに当たっては、高齢や障がいなど、人によって異なる移動のしやすさなどに配慮して進める必要があります。

NO	委員名	意見	対応	二次評価
	共通			
22	室田委員	達成率が150%や200%を超えているようなKPIがあるが、これは順調に進んでいるということでもよろしいのか。あまり達成率が高いと、目標自体が低かったのではないかと、目標の適切性が問われることになる。	今回の評価報告書には反映しませんが、ご意見を踏まえ、今後指標の検討を行っていきます。	
23	平井委員	総合戦略全体としては概ね順調と評価はできるが、合計特殊出生率2.07を目指す中で、自然減をどう緩やかにしていくかが課題である。	ご意見については事業実施の中で参考とさせていただきます。	
24	富田委員	評価をする際には、できなかったものはできなかったと記載することで、最終的に評価の信用力も高まる。	ご意見については進行管理等の課題として今後の参考とさせていただきます。	
再	牛山座長	基本目標3「若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる」の二次評価の「女性が働きづらい原因を分析し・・・」という指摘は、基本目標1の「(県内に仕事をつくり、)安心して働ける(ようにする)」にも共通する課題であるため、横串を刺すような、何らかの工夫ができると良い。	二次評価(基本目標1)に反映しました。	
25	関委員	総合評価について、報告書全体の説明である前半部分の記述が抽象的であり、ここを読んだだけでは何が順調なのか、何が良くなかったのかがわかりにくい。ここだけ読む人もいるかもしれないので、報告書の全体像がわかるように、もう少し具体的な内容について書いた方が良い。	二次評価(総合評価)に反映しました。	
26	関委員	二次評価について、評価している点については何も記載がなく、課題だけが記載されているが、概ね順調に進んでいる理由を記載したり、順調に進んでいるがこういった課題があるという記載をした方がわかりやすい。	二次評価に反映しました。	
27	平位委員	KPIなど、達成状況が良いものばかりだと、報告書として順調に進んでいることを強調しているようにも読める。	ご意見については進行管理等の課題として今後の参考とさせていただきます。	
28	平井委員	数値目標の達成状況の評価は最終年に行うこととしているが、毎年度行っても良いのではないか。基本目標ごとの評価が順調であっても、上位目的である数値目標や「克服すべき2つの課題」「3つのビジョン」を改善するには至っていないため、更なる改善や追加の施策が必要であると明記した方が、読み手にもわかりやすく、危機感も共有できるのではないか。	二次評価(総合評価)に反映しました。	
29	林田委員	数値目標について、中長期的な見通しの中で最終的に評価をしていくことになるので、そのことを明記しておいた方が良い。	二次評価(総合評価)に反映しました。	